

新日鉄住金化学、グループ会社向けに共通基幹業務システムを再構築 ～業務情報の一元化と可視化を図り業務スタイルの変革を狙う～

キヤノンMJ ITグループのキヤノンITソリューションズ株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:浅田和則、以下キヤノンITS)と、東洋ビジネスエンジニアリング株式会社(本社:東京都千代田区、取締役社長:石田壽典、以下B-EN-G)は、新日鉄住金化学株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝山憲夫、以下新日鉄住金化学)が、B-EN-Gの生産管理パッケージ「MCFrame XA(エムシーフレーム エックスエー)生産管理・販売物流・原価管理」をグループ会社4社向けの共通業務基盤システムとして採用し、稼働開始したことを発表します。導入先のグループ会社は、製鉄化学事業本部および機能材料事業本部関連の企業で、新日鉄住金グループの化学事業分野を担う国内の中核企業として幅広い分野に事業を展開しています。本システムの導入は2期に分かれ、ステップ1は2013年4月に導入が完了し、現在は2014年4月稼働開始を目指し、ステップ2の導入作業中です。本システムは、キヤノンITSとB-EN-Gが共同で提案を行った結果、新日鉄住金化学に採用され、導入に当たってはコンサルティングフェーズを含め、企画・設計・開発・保守までを一貫してキヤノンITSが担当しています。

2010年に新日鉄住金化学(当時新日鐵化学株式会社)では、2020年を目標としたグループのあるべき姿グランドデザイン策定を契機に、個別事業の戦略策定・実行とビジネスモデルを支える業務改革活動に着手し、その一環として、ホストコンピュータからの脱却を含めシステム再構築に取り組むことになりました。システム再構築の基本方針は、競争力ある業務環境の提供を目指し、情報と業務を繋げ、業務を高速化、可視化することでした。2011年には、システム再構築を推進する目的で、各事業部からメンバーが集められ、業務システム構築のプロジェクトチームが発足しました。順次メンバー追加を行い現時点では総勢30名となっています。ステップ1として、事業規模が大きく、システム化のニーズも高い、エスバネックス、エスファイン、シーケムの3事業を先行モデルとして要件整理を行い、大きな業務についてのシステム単位でのモデル化検討と統合マスタの共通化を実施の上、MCFrame XAベースの「生産管理・販売管理・原料購買システム」を開発しました。

【MCFrame XAの選定ポイント】

- (1) カスタマイズの柔軟性と開発生産性
- (2) 機能全体を含めた総合的評価
- (3) 様々な事業タイプ(プロセス系と組立系)への適合性
- (4) 画面のユーザビリティ
- (5) ユーザー重視の保守サービス(強制的なバージョンアップがない等)

ステップ1完了後の効果は、受注・在庫・生産状況のリアルタイムな把握、リードタイムの短縮と在庫圧縮、品質とトレーサビリティの向上、生産計画の迅速化となって現れました。現在は、ステップ2として、ステップ1で対象となった3事業部に加え、一部を除く全事業部への「生産管理・販売管理・原料購買システム」と「原価管理・物流管理システム」の導入が進行中で、2014年4月の稼働開始を予定しています。このシステム再構築には、情報活用系システムとしてデータベースやBI(ビジネス・インテリジェンス)、会計系システムも含まれており、データの一元化と可視化による業務スタイルの変革を目指しています。

■ MCFrameについて

「MCFrame」は、日本の製造業のお客様に求められるきめ細かな管理に対応し、各種機能を備える生産管理、販売管理、原価管理システムです。「MCFrame」の特徴は、豊富な標準機能と、コアコンピタンスにつながる各社固有の業務プロセスに、柔軟かつ効率的に追従できるフレームワーク構造です。「MCFrame」の大きな特長であるこのような高機能と柔軟性・拡張性を高く評価いただき、製造業を中心に380社を超えるお客様にご採用いただいております。多言語対応しており、ここ数年は、中国、タイを始めとするアジア各国に進出する日系企業様向けのグローバルなシステムの構築にもご採用いただいております。製品の詳細な仕様については、<http://www.mcframe.com>をご覧ください。

■ 新日鉄住金化学株式会社について

新日鉄住金グループの化学事業分野を担う中核企業として、世界を舞台に活躍しています。製鉄事業に関連して発生するコールドール、コークス炉ガス等の有効活用を中心とする、総合的な製鉄化学事業は、世界でもトップクラスの規模を誇ります。これを基盤に石油化学事業に加え、炭素材、工業用ガス、化学品、合成樹脂など、幅広い分野に事業を展開。さらに各種スペシャリティケミカル製品、潤滑材、電子材料を事業化するなど、特色ある芳香族化学の技術を生かし、産業社会の多様なニーズに応える、積極的な事業展開を進めています。

<http://www.nscen.ssmc.com/index.html>

■ キヤノンITソリューションズ株式会社について

キヤノンMJグループの中核企業として、技術力と業務知識に裏打ちされた業種別ソリューションとさまざまなプラットフォームでのIT基盤からアプリケーションにいたる豊富な開発実績、さらに長年の研究開発で培った独自の先端技術を強みに、新たな付加価値を生む想像力と確かな技術でサービスを提供する「トータルサービスプロバイダ」を目指しています。

<http://www.canon-its.co.jp/>

■ 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社について

東洋ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)はIT企画、BPR実施のビジネスコンサルティング、IT導入コンサルティングから、システム構築サービス、運用サービスにわたり、ERPを中心に豊富な実績を有するビジネスエンジニアリング企業です。またERPをベースとしたSCM、CRM導入支援ならびに中国を初めとしたグローバル展開支援での実績を積み重ねています。

東洋ビジネスエンジニアリングの詳細は<http://www.to-be.co.jp/>をご覧ください。

* 本ニュースリリースに記載されている社名、製品名などは、各社の登録商標または商標です。